授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	木村　勝彦		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

この研究指導Ⅲでは、Ⅰにおける方法論的視座の確立や作業仮説の構築、Ⅱにおける具体的事例の抽出とデータの収集という基礎作業を受けて、実際に「博士論文の作成」に当る上での個別指導を眼目とする。すなわち、作業仮説と収集したデータ資料との整合性や学問的意義を具さに検討しつつ、論文全体の構成と表現手法を練り上げることによって、体系的で高度な学術論文として完成させることができるよう指導するものである。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	観光倫理思想に関する問題意識を明確にし、それを地域マネジメントの問題に応用して論じることができる。	・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントにおける論点を整理し、この分野に新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。	・博士論文執筆	20%
技能・表現	観光倫理の諸概念と視点を地域マネジメントに関する自らのテーマに応用し、論文を執筆することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関する主要な研究業績に当たって専門的な学術用語を正確に理解し、説明することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は博士論文の中間段階での執筆・提出 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%の配分で行う。博士論文の中間段階での執筆・提出は文字通り、指導教員の指導を十分に受けて学位請求論文を書き進め、その一部を提出するものであって、博士の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。年度末にはその成果を専攻内の中間発表会で報告しなければならず、これを果たさない場合には単位は与えられない（完成した学位請求論文を提出した後の公開試問会はこれとは別である）。

授業の概要

この授業は、博士論文の指導を内容とするものであり、ここでは特別研究指導Ⅰの「テーマ・サーヴェイ」、Ⅱの「リサーチ研究」をもとに学位請求論文として完成させることを目標に、内容の整合性や学問的意義をさらに高めるとともに、論文構成および表現手法を練り上げ、形式・体裁を整えていくための指導を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。

参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門的知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティ溢れるパースペクティヴ（ものの見方・捉え方）を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させていくことを要求する。年度末に専攻内の中間発表会で発表報告することは義務であるが、研究科での他の中間発表会や公開試問会にも積極的に参加する必要がある。また全国的な学会における学術発表、および学会誌へのレフェリー付学術論文の投稿・掲載を目指す。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	池永　正人		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テ ー マ：現地調査と研究成果の公表、博士論文の完成

到達目標：研究成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。そして、博士論文を完成させる。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域の自然現象や人文・社会現象に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	文献調査 地域調査	10% 15%
思考・判断	地域の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査結果の分析・整理	20%
技能・表現	調査の方法および調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身につけることができる。	研究成果の執筆 研究発表	20% 20%
知識・理解	地域の事象に関する自然科学や人文・社会科学の専門知識を修得できる。	文献・資料の収集および分析	15%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

２年次までに修得した学位論文執筆の技能、つまり文献調査および地域調査の方法・内容・成果、論文の文章・地図・グラフ・表・写真の表現、研究発表などは、さらに高いレベルを要求する。

なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することはこれまでと同様であるが、全国規模の学会誌に２本目の研究論文が掲載されることを単位認定の条件とする。

授　業　の　概　要

２年次の研究成果を１年次と同様に学会発表し、学会誌に投稿する。また、後期が始まるまでに補足調査等を済ませ、研究課題に関するオリジナルな理論を構築した博士論文の執筆を終わらせる。後期は、研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期のうちに補足調査や考察を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げに時間を費やして博士論文を完成してほしい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	坂本　雅俊		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

この演習は、特別研究指導Ⅰ、Ⅱとの継続性を持たせて行う。従って、社会福祉学を基盤とした地域福祉、地域マネジメントにおける研究視座について引き続き指導する。そしてその内容は、地域福祉に関連する社会福祉学論争について、社会政策を軸とした研究テーマと関連させて指導を行う。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	社会福祉に関する社会問題、社会的問題を見極める際の関心を活かして、地域マネジメントにおける全体系について論じることができる。	博士論文執筆の内容 授業での発表	10% 10%
思考・判断	社会科学的思考・判断を通じて、地域福祉の問題を探しだす価値基準を持ち、総合的決断をすることができる。	博士論文執筆の内容	20%
技能・表現	地域福祉社会を実現するための人材育成、資源開発を具体化・検証することができる。	博士論文執筆の内容 中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関連する必須の国内外研究論文を精読する。その上で研究ターゲットを明示でき、論証方法を文章化し、なおかつ詳細に説明できる。	博士論文執筆の内容 中間発表会での発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

授業での発表10%、中間発表での発表内容で30%、博士論文執筆の内容で60%の配分で行う。

研究テーマに沿った研究報告を定期的に行わせ、その内容の到達度に応じて評価を行う。この内容は中間発表における内容と博士論文を書き進む内容と関連するものであることから、新たな知見を見つける課題設定の妥当性をはじめとして、エビデンスを収集した上で論証していくリサーチの技術技巧も含めて評価する。

授業の概要

博士論文の執筆指導を行う。その内容は、学生が博士論文において設定した社会福祉学における地域の課題や目標について、事例検討や政策に関するスーパービジョンを展開する授業を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。
参考書：授業のなかで指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

大学院の中間発表、公開試問会へ参加すること。関連学会へ加入し、全国学術大会などで参加し、発表を義務付けている。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	中村　龍文		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

研究指導Ⅲでは、Ⅰにおける実際に行なわれている福祉・医療における問題点に対する解決策の構築、Ⅱにおける研究テーマの完成に向けての具体的且つ実際的なアプローチを受けて、実際に「博士論文の作成」に当たる。同時に研究成果を学会・学術誌で発表する。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	福祉・医療の面から見た地域の諸問題点を指摘することができる。	・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%
思考・判断	福祉・医療の面から指摘した問題点について、自己の考えを述べることができる。	・博士論文執筆	20%
技能・表現	種々の問題点について、独自の発想から展開した論文を執筆することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	地域・福祉・医療についての専門的な用語を正確に説明することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	20% 10%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

博士論文の作成指導を総合して評価する。論文は博士論文の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。

授　業　の　概　要

授業は、いかに優れた博士論文を成し遂げるかを指導していくものである。博士論文に相応しいオリジナリティが発揮されているか。先行研究の整理が十分に成されているか。サンプリングの方法が、方法論的にも倫理的にも適切であるのか。独自の明白な結論や提言が述べられているのか。これらを論文作成の大きな柱として、可能な限りきめ細やかな指導を行なっていく。後期には研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。

参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

博士論文を執筆するには、それなりの高い志と、熱意を持続的に持ち続けて欲しい。単なる机上の論理だけでは優れた論文は出来ないであろう。そこには様々なフィールドワークを含めた学外の詳細な調査が必要であり、一方で社会を広く捉える視点も必要である。自己の研究と関連した、色々な研究会、学会に参加し、最新の情報を得、見識を深めて欲しい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	落合　知子		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授 業 の ね ら い

テ ー マ：現地調査と研究成果の公表、博士論文の完成

到達目標：研究成果を関連学会で口頭発表するとともに学会誌に投稿する。そして、博士論文を完成させる。

観点	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	博物館や地域文化資源に関心を抱き、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	文献調査 地域調査	10% 15%
思考・判断	博物館の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査結果の分析・整理	20%
技能・表現	調査方法及び調査結果の分析・整理、博士論文の執筆・発表の技法を身に付けることができる。	研究成果の執筆 研究発表	20% 20%
知識・理解	博物館学の専門知識を修得できる。	文献・資料の収集および分析	15%
出　　席			受験要件
合　　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

２年次までに修得した学位論文執筆の技能、調査結果に関してより高いレベルを要求する。

なお、研究発表は全国規模の学会と長崎国際大学国際観光学会において口頭発表することはこれまでと同様であるが、全国規模の学会誌等に２本目の研究論文が掲載されることを単位認定の条件とする。

授　業　の　概　要

２年次の研究成果を１年次と同様に学会発表し、学会誌に投稿する。また、後期が始まるまでに補足調査等を済ませ、研究課題に関するオリジナルな理論を構築した博士論文の執筆を終わらせる。後期は、研究内容の公開発表や予備審査において指摘された箇所を修正して博士論文を完成させ、本審査の手続き作業を行う。

教　科　書　・　参　考　書

教科書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

参考書：特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期で補足調査や考察を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げをして博士論文を完成させることが望ましい。

授業科目	特別研究指導 Ⅲ Special Study on Degree Thesis III			担当教員	滝　知則		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	1年/通年	必修・選択	選択

授業のねらい

観光が地域マネジメントにもたらす課題に、誰がどのように取り組むべきかの考察を完成させる。２年次までの研究成果を踏まえ、論文を完成させる。研究の結果明らかになったことについての考察を深め、論文全体としての論旨を明確にさせることに重点を置く。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	自分の選んだフィールドにおいて、地域マネジメントに関わるどのような課題が生じているかを把握し、論じることができる。	授業態度・参加 論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントに関わる課題にどう取り組むべきかを、論じることができる。	論文執筆	20%
技能・表現	論文を、読み手にとって分かりやすく執筆できる。	論文執筆 中間発表	10% 20%
知識・理解	先行研究に基づいて、研究テーマに関する学術用語を正確に使用することができる。	論文執筆 中間発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準及び評価手段・方法の補足説明

博士論文執筆 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%とする。

授業の概要

（1）３年次では、博士論文を完成させる。適切な裏付けに基づいて明確な主張を示した、読み手に分かりやすい論文とする。
（2）第２回中間発表を行う。
（3）博士論文の提出、公開試問を受ける。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。
参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

（1）論理的で明快な説明を心がけること（過度に能弁であることとは別である）。
（2）大学院の同僚や研究協力者に敬意と誠意をもって接し、教わろうとする姿勢。
（3）健康ならびに周囲との人間関係を良好に保つ。根気が続く源となる。
（4）研究の進めるうえで困ったことが生じたときは、すぐに指導教員に相談する。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	熊谷　賢哉		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

特別研究指導（Ⅰ～Ⅲ）を通して、博士の学位授与に値する質の高い博士論文の完成を目指す。研究指導Ⅲでは、研究指導Ⅱに引き続き、①博士論文の研究テーマの一部分となりうるような課題を設定し、その課題解決に向けた研究方法の選択、更には結果の分析を行い、②その成果を関連学会で発表した後に学会誌に投稿する。そして、最終的に全体の構成を考え、体系的で高度な博士論文を完成させる。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	課題解決に向けた地域調査に意欲的に取り組むことができる。	・地域調査	10%
思考・判断	・特定の地域を対象とした地域マネジメントにおける身体活動、運動、スポーツの活用に関する課題を設定することができる。 ・博士論文の全体構成を考える。	・文献や資料の収集および分析 ・博士論文執筆	10% 20%
技能・表現	・課題解決方法、結果分析、学会発表、論文執筆のそれぞれの技法を身に付けることができる。 ・体系的かつ論理的な博士論文を執筆する。	・学会発表 ・研究論文執筆 ・博士論文執筆	10% 10% 30%
知識・理解	特定の地域を対象とした地域マネジメントにおける身体活動、運動、スポーツの活用の現状について把握することができる。	・文献や資料の収集および分析	10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は文献や資料の収集および分析20%、地域調査10%、学会発表10%、研究論文執筆10%、博士論文執筆50%の配分で行う。文献や資料の収集および分析については、特定の地域を対象とした地域マネジメントにおける身体活動、運動、スポーツの活用の現状を把握した上で、その課題について設定できたか、という点を評価基準とする。地域調査については、設定した課題を解決するために、正しい方法論に即した地域調査が行えたか、という点を評価基準とする。学会発表および研究論文執筆については、地域調査により得られた結果を分析し、結論を導いた上で、その一連の研究成果を関連学会にて発表し、更に、論文として学会誌に投稿できたか、という点を評価基準とする。博士論文執筆については、これまでの研究成果をふまえた全体構成を考えた上で、体系的かつ論理的な博士論文を完成できたか、という点を評価基準とする。

授業の概要

前期は、研究指導Ⅱにおいて自らが行った研究結果の分析、および文献や資料の収集および分析から、特定の地域を対象とした地域マネジメントにおける身体活動、運動、スポーツの活用の更なる課題設定を行う。その後、後期開始前までに、前述した課題の解決に向けた地域調査を計画・実行する。後期には、得られた調査結果を集計・分析することで結論を導き、一連の研究成果を関連学会にて発表し、学会誌に研究論文として投稿する。また、全行程と並列して、博士論文の執筆を完成させる。

教科書・参考書

教科書：授業の中で指示する。
参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

博士の学位授与に値する質の高い博士論文の完成を目指し積極的に取り組んでほしい。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	大畠　啓		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

この研究指導Ⅲでは、Ⅰにおける方法論的視座の確立や作業仮説の構築、Ⅱにおける具体的事例の抽出とデータの収集という基礎作業を受けて、実際に「博士論文の作成」に当る上での個別指導を眼目とする。すなわち、作業仮説と収集したデータ資料との整合性や学問的意義を具さに検討しつつ、論文全体の構成と表現手法を練り上げることによって、体系的で高度な学術論文として完成させるよう指導するものである。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	社会福祉思想に関する問題意識を明確にし、それを地域マネジメントの問題に応用して論じることができる。	・授業態度・参加 ・博士論文執筆	10% 10%
思考・判断	地域マネジメントにおける論点を整理し、この分野に新しい知見をもたらす独自性を提示することができる。	・博士論文執筆	20%
技能・表現	社会福祉の諸概念と視点を地域マネジメントに関する自らのテーマに応用し、論文を執筆することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	10% 20%
知識・理解	研究テーマに関する主要な研究業績に当たって専門的な学術用語を正確に理解し、説明することができる。	・博士論文執筆 ・中間発表会での発表	20% 10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は博士論文の中間段階での執筆・提出 60%、授業態度・参加 10%、中間発表会での発表 30%の配分で行う。博士論文の中間段階での執筆・提出は文字通り、指導教員の指導を十分に受けて学位請求論文を書き進め、その一部を提出するものであって、博士の学位にふさわしい条件・水準を満たしたものでなければならない。授業態度・参加については、指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させているかを評価基準とする。その成果を研究科の中間発表会で報告しなければならず、これを果たさない場合には単位は与えられない（完成した学位請求論文を提出した後の公開試問会はこれとは別である）。

授業の概要

この授業は、博士論文の指導を内容とするものであり、ここでは特別研究指導Ⅰの「テーマ・サーヴェイ」、Ⅱの「リサーチ研究」をもとに学位請求論文として完成させることを目標に、内容の整合性や学問的意義をさらに高めるとともに、論文構成および表現手法を練り上げ、形式・体裁を整えていくための指導を行う。

教科書・参考書

教科書：特に指定しない。授業の中で指示する。

参考書：授業の中で指示する。

授業外における学修及び学生に期待すること

この授業の受講生には、自らのテーマに関する先行研究（著書、学術論文その他の資料）に幅広く当たり、高度な専門的知識を修得するとともに、当該分野に新しい知見をもたらすようなオリジナリティ溢れるパースペクティヴ（ものの見方・捉え方）を提示するよう努力することを期待する。指導教員の指導を真摯に受けとめ、それを論文内容に反映させていくことを要求する。中間発表会で発表報告することは義務であるが、公開試問会にも参加する必要がある。また全国的な学会における学術発表、および学会誌へのレフェリー付学術論文の投稿・掲載を目指す。

授業科目	特別研究指導Ⅲ Special Study on Degree Thesis Ⅲ			担当教員	城前　奈美		
展開方法	演習	単位数	4単位	開講年次・時期	3年／通年	必修・選択	必修

授業のねらい

特別研究指導（Ⅰ～Ⅲ）を通して、地域経済社会と観光現象との関係に関するもので、博士の学位に値する質の高い博士論文を作成する。特別研究指導Ⅲでは、博士論文の最終的な研究目的、研究手法および構成を定め、研究（必要に応じて追加調査）や執筆を続行する。そして、その成果を中間発表会で発表し、体系的で学術的・社会的意義のある博士論文を完成させる。

観点	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
関心・意欲・態度	地域経済社会と観光現象との関係に関心を持ち、調査・研究に意欲的に取り組むことができる。	授業態度・参加	20%
思考・判断	地域経済社会に与える観光現象の特性や問題点を見出す観察力・思考力を養うことができる。	調査・研究の成果	30%
技能・表現	調査や研究の成果を、分析的に、かつ、論理的に執筆・発表できる。	研究成果の執筆 研究成果の発表	20% 20%
知識・理解	地域経済社会と観光現象との関係に関する知識を修得できる。	文献調査	10%
出　席			受験要件
合　計			100%

評価基準および評価手段・方法の補足説明

評価は、授業態度・参加20%、調査研究の成果30%、研究成果の発表20%、研究成果の執筆20%、文献調査10%の配分で行う。授業態度・参加については、計画的に調査研究や執筆を進行したかを評価基準とする。調査・研究の成果については、調査結果や統計の分析や考察から、特性や問題点を的確に適正に見出しているか、さらに、その成果が博士論文に値する学術的・社会的意義を有するか、を評価基準とする。研究成果の発表や執筆については、博士論文の中間発表会において、分析的に、かつ、論理的に表現できているかを評価基準とする。文献調査については、追加的に必要な文献を理解したかを評価基準とする。

授業の概要

前期は、博士論文の研究（必要に応じて調査）と執筆に重点をおき、調査結果や分析結果を議論するとともに、執筆した原稿について、随時、添削していく。これら一連の作業成果を、博士論文の中間発表会で口頭発表する。

後期は、博士論文の執筆を終了し修正を施していく。研究目的から結論までの骨組みの論理性、独自性を確認する。

教科書・参考書

教科書：　特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。

参考書：　特に指定しない。各自の研究に必要な文献を購入する。

授業外における学修及び学生に期待すること

前期のうちに補足調査や分析を済ませ、後期は論文の体裁・内容など全体の仕上げをして博士論文を完成させることが望ましい。